■効果の見える治水事業

高知県　　浮鞭海岸津波・高潮危機管理対策緊急事業

高知県幡多土木事務所長　　野々村（ののむら）　毅（たけし）

＜地域の概要＞

浮鞭海岸は高知県西部の幡多郡黒潮町に位置している延長１，０４０ｍの海岸で、太平洋に面しているため、風浪の強い地域です。背後には人家、国道５６号が控えており、昭和南海地震（１９４６）においても、津波による被災があり、今後３０年以内に６０％の確率で発生が予測されている南海地震においても、大規模被害が想定されています。

＜事業の概要＞

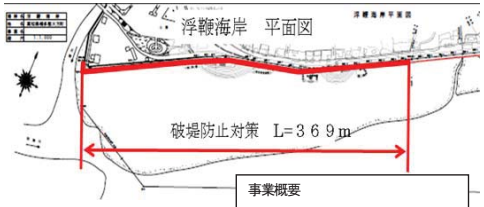
前述のとおり当海岸の背後には人家、国道５６号が控えており、浮鞭海岸の堤防は防災対策上非常に重要な役割を果たしています。

しかしながら、昭和南海地震以降に整備した既存施設は著しく老朽化しており、地震時における安全性の把握についても不十分な状況でした。

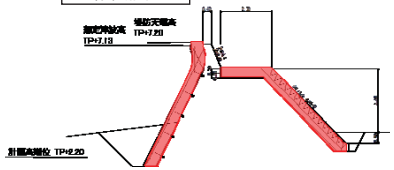
そこで、高知県の南海地震対策の基本的な考え方である県民の命を守ることを最優先にした「逃げる」取り組みを支援するために、老朽化の著しい箇所のコンクリート被覆等により通常施設として緊急的な防災機能の強化を図ることを目的として平成２２年度より平成２３年度にかけて津波・高潮危機管理対策緊急事業での浮鞭海岸の破堤防止対策を実施しました。

この改良により老朽化した堤体の補強が完了したと同時に、堤防の表法のコンクリートによる被覆により断面を大きくすることで設計水位を超える大きな津波に対しても浸水被害の発生を遅延させる効果が一定期待できる粘り強い構造となっていると考えています。

今後も引き続き地元住民と一体となって地域防災の推進に努めたいと考えています。



標準断面図



事業概要
- ●H22 年度～H23 年度施工
- ●事業費 56 百万円
- ●工事内容
  - ・表法のｺﾝｸﾘｰﾄによる被覆
  - ・裏法のｺﾝｸﾘｰﾄによる被覆　等

（改良後）

黒潮町の南海地震対策

黒潮町長　　大西（おおにし）　勝也（かつや）

高知県幡多郡黒潮町は、高知県の中でも西南地域であり、幡多郡の中でも東部に位置します。高知県幡多郡「大方町」「佐賀町」の合併による新しい町として、平成 18 年 3 月 20 日に誕生しました。「人が元気、自然が元気、地域が元気」を合い言葉に、2 町の速やかな一体化を促進し、新しいまちとして出発しました。

気候は、南国特有の温暖で年間平均気温 17 度、降雨量 2800㎜ 前後と、雨が多くなっています。こうした気候を活かして、大方地区では早くから施設園芸や花卉、葉たばこ、水稲を中心に栽培が行われ、農業の盛んな町でした。

また、佐賀地区では「土佐カツオ一本釣り漁業」が盛んであり、近年は完全天然塩も代表的な特産物となっています。農業では、シメジやエノキダケ、エリンギなどの栽培が盛んな町でもあります。

また、今年の3月31日に南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高の推計が、国（内閣府）から１次報告として公表されました。その内容では、黒潮町において「最大震度7、最大津波高34.4m」という大変厳しい数字が示されました。今回の推計は、東日本大震災の教訓を踏まえた新たな考え方として、あらゆる可能性を考慮し、現時点の最新の科学的見地に基づき、最大クラスの地震、津波を想定したものですが、高知県下では南海トラフを震源とする地震に、100 年～150 年の周期で繰り返し襲われており、地震による家屋の倒壊や津波により、多大な人命及び財産を失ってきています。このため、本町においては、「生命の安全確保」を最優先に考え、防災関係機関、事業者、町民が一体となって、建築物の耐震対策、津波避難対策、人づくり・地域づくり対策など、ソフト対策を優先しながら、ソフト対策を補完するものとして効果的なハード対策を推進し、減災に向けた施策の一層の充実を図ります。過去に発生した南海地震は、東海地震や東南海地震と同時に発生する場合のほか、数時間から数年の時間差で発生しています。このため、こうした可能性を考慮するとともに、被害の広域性や地域の孤立などの災害特性なども踏まえて、対策を進めていきます。

浮鞭海岸の津波高潮危機管理対策事業の完成は前述したようにソフト対策を補完する効果的なハード対策の一環として効果を期待しており、今後も100年から150年に一度の頻度で発生する津波に対応でき、1000年に一度の頻度で発生する最大規模の津波による浸水被害を遅らせることができる防潮施設の整備を国や県に要望していきたいと考えております。

Tシャツアート展

黒潮町入野の浜